あかりレンタル
サーモグラフィー貸し出し

顔認証と一体 サーマルタブレット
コロナ感染防止に活用

LED(発光ダイオード)照明のレンタル事業を展開するあかりレンタルジャパン(守田俊彦社長、東京都港区)は、新型コロナウイルス感染拡大が続くことを受け、顔認証システムを活用したサーモグラフィーのレンタルを開始した。工場や物流センターの入り口ゲートなどへの設置により、感染防止に役立ててもらう。(谷本博)

体表温度測定システム「サーマルタブレット(多機能携帯端末)」は、防犯カメラなどで顔認証システムなどの製造を手掛けるプライヤーズ(浦田恵介社長、品川区)が開発。あかりレンタルジャパンは、LED照明レンタルで培ったノウハウを活用して独自のレンタル方式を打ち出した。同サービスは10日から開始している。

サーマルタブレットの特徴は、①顔認証機能と体温測定機能との一体型のため、顔のスキャンと同時に自動的に体温を測定することで移動効率が向上②マスク不着用時には、音声でマスク着用を要請③顔スキャンにより、出入りする関係者を記録しチェックできるため、担当者の再チェックに効果④体温の異常温度情報を自動的に記録し、自動的に関係者をカウント――など。

また、7インチモニターで解像度が鮮明。カメラ内部ス

顔のスキャンと同時に自動的に体温を測定

トレージに情報を保存するため、ネットワーク不要で運用できる。体温検知の早さが1・5秒、マスク着用検知は0・2秒で、いずれも50センチから2メートルの距離で対応可能という。レンタル期間は3年で、料金単価は月額9900円(税別)。当面は月間40台の契約を目指す。

守田社長は「新型コロナの第2波、第3波のリスクが強く懸念されている。今後も従業員や来訪者に対してスピーディーな体温測定、マスク不着用者への警告といった対策が重要になる」と述べている。

熱中症リスク可視化
システム テナントに無償提供
ESR

ESR(スチュアート・ギブソン社長、東京都港区)は14日、熱中症リスクを可視化できる「ESR 環境モニタリングシステム」の提供を開始した、と発表した。ESRの物流施設内外にセンシングデバイス(感知機器)を設置し、温度・湿度を15分ごとに計測。暑さ指数が一定基準を超えるとアラートで知らせる。

ESR、建物、テナント企業の管理者はそれぞれ、権限別に全施設、建物、占有区画を確認でき、PCやスマートフォン(スマホ)による遠隔操作が可能。テナント企業の熱中症対策として無償で提供する。また、コロナ禍でマスク着用による熱中症リスクが高まっていることを踏まえ、同システムをテナント企業に役立てたいとしている。

ESR野田ディストリビュ

施設内外に感知機器を設置

横浜・金沢にマルチ型
22年1月竣工 免震構造4階建て

ESRは16日、横浜市金沢区でマルチテナント(複数企業入居)型物流施設「ESR横浜幸浦ディストリビューションセンター(DC)1」を着工した、と発表した。同じ敷地内に物流施設を2棟開発する予定で、1期棟は2022年1月末に竣工、2期棟が23年1月末に竣工する計画だ。総投資額は2棟で約1千億円。敷地面積が9万平方メートル、

首都高速道路湾岸線・幸浦インターチェンジから1キロに位置

ューションセンター(DC、千葉県野田市)、ESR守谷DC(茨城県守谷市)、ESR名古屋大高DC(名古屋市緑区)で7月から順次開始。今後、9月に竣工予定のESR戸田DC(埼玉県戸田市)、2021年6月に竣工予定のESR川崎夜光DC(川崎市川崎区)にも導入する。(菊地将矢)

免震構造の4階建てで、延べ床面積は19万5千平方メートル。敷地内には大型トレーラ待機場54台分を、トラック待機場4台分をそれぞれ整備する。首都高速道路湾岸線・幸浦インターチェンジから1キロに位置。最寄り駅の横浜シーサイドライン並木北駅からは700メートルと、通勤利便性が高く、雇用確保に優位な立地だ。

スチュアート・ギブソン社長は「当社として初めての免震構造の施設。快適に過ごせるよう、託児所、ラウンジ、スカイデッキ、シャップなど充実したアメニティーを整備する」としている。(井内亨)

船井総研ロジ
化学品・危険品物流を診断
現状分析し解決策示す

船井総研ロジ(菅重宏社長、東京都千代田区)は17日、化学品業界特有の物流に関する課題・問題点を可視化し、解決策を提示する「化学品・危険物物流診断サービス」の提供を16日から開始した、と発表した。化学品製造業及び化学品を取り扱う荷主企業の物流改善を支援してきた経験を基に、品種・荷姿・便別の現状分析「コンプライアンス(法令順守)チェック、物流コスト評価などを行い、解決策を導き出す。

化学品・危険物の荷姿は特殊なものが多く、輸送時の積載効率に大きく影響する。また、輸送・保管・荷役時には特殊技能や経験が必要となるため、安定的な物流体制の構築が化学品業界の課題とされている。

化学品の取り扱いに精通している会社に関する情報の不足や、委託先物流企業任せによる危険物倉庫の指定数量超え、危険物充てん補充時に立ち会わないといったコンプライアンス違反など、様々な課題を抱えるシーンでの支援を想定している。(原田洋一)

製造プロセス改善を支援
日立系 データからシナリオ算出

日立ソリューションズ(星野達朗社長、東京都品川区)は15日、製造プロセスの改善を支援するクラウドサービス「グローバルSCMシミュレーションサービス」の提供を開始した、と発表した。サプライチェーン(供給網)のグローバル化が進む中、新型コロナウイルスをはじめ、経営に甚大な影響を及ぼす予測できないリスクが急増。これら変化に応じた迅速な事業計画の見直しに寄与する。

企業の生産・販売計画、物流拠点の統廃合・新設など様々な取り組みについて、最適な生産拠点と調達経路、生産・販売量、トータルコスト、利益・キャッシュフローといった要素をシミュレーションできる。設備や需要、輸送、為替・関税などの情報とIoT(モノのインターネット)データから数理的最適化手法で算出し、帳票や画面で複数のシナリオの達成状況を提示する。(原田洋一)

研究開発用「台車ロボ」
ヴイストン
自動搬送 スムーズに機材導入

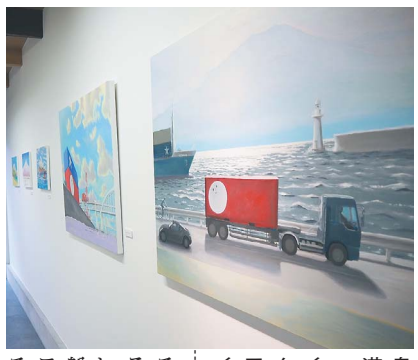
ヴイストン(大和信夫社長、大阪市西淀川区)は14日、研究開発用台車ロボット「メカナムローバーVer2・1」のレンタルを開始する、と発表した。自動搬送の研究などで機材の費用清算を柔軟化し、機材導入をスムーズにする。

同ロボの積載重量は40キロで、四輪駆動の「メカナムホイール」を搭載し全方向に移動できる。操作はプログラム開発で行うほか、ROS(ロボット・オペレーティング・システム)で指示。既に開始している「メガローバーVer2・1」と併せ、用途の幅を広げる。料金は短期レンタルが10日間10万円(参考価格、税別)、長期レンタルが初回6カ月33万円(同)となっている。また、長期レンタルでは同製品のセンサーを強化した機体を、初回6カ月49万8千円(同)で用意。レンタル費用は期間により変動するとしている。(菊地将矢)

全方向に移動できる

「コンテナくん」誕生20周年
作者の谷川氏が個展
地球巡る姿 美しく

絵本『かもつせんのいちにち』(福音館書店)の著者、谷川夏樹氏の個展が18日に大阪市北区で開かれ、世界を旅するコンテナのキャラクター「コンテナくん」誕生20周年を祝った。世界の様々な風景の中で活躍するコンテナやそれを運ぶトレーラ、貨物船などを見ることができる。


鳥取県の境港が舞台の「コンテナくん」を積んだトレーラなどを描く(右端)

谷川氏は小学生の時に見た映画「オーバー・ザ・トップ」のトレーラに憧れ、興味を持つようになった。13歳から独学で油絵を始め、2000年に見た大阪湾を悠然と行き交うコンテナ船からコンテナくんを着想。11年に絵本『コンテナくん』(同)を発売し、絵本作家としても活躍する。旅行が趣味で、旅先で撮った写真の風景の中にコンテナくんを溶け込ませている。

更に、井本商運(井本隆之社長、神戸市中央区)が作製するオリジナルカレンダーのイラストも担当。15年には7月15日を「内航船の日」と提案し、日本記念日協会から正式記念日認定を受けた。

メインは油絵で、アクリル画を含め十数点を展示。イギリスのビッグ・ベンやシドニーのオペラハウスの景色の中に描かれたコンテナの姿を見られる。鳥取県の境港を舞台に、コンテナくんを積んだトレーラを描いた作品なども展示されている。

コンテナくんがモチーフになっている缶バッジやシールなども販売している。火・水曜日を休廊とし、『Nii Fine Arts』で8月2日まで開催する。

谷川氏は「コンテナくんの顔の丸さは地球をイメージしたもの。地球上を巡るコンテナの姿を美しくみせたかった」と話す。(根来冬太)

ロジザードZERO
衣料むけ販売管理と連携
初の基幹システムで

ロジザードは14日、同社のクラウド倉庫管理システム(WMS)「ロジザードZERO」が、他社のアパレル業界向け販売管理システムと標準連携した、と発表した。ロジザードZEROが基幹システムと標準連携するのは初めて。

フレイトリンクスジャパン(中村貴寿社長、大阪市中央区)の提供する「One'S Closet」とAPI(アプリケーション・プログラミング・インターフェース)連携し、機能を共有した。

商品マスター、取引先マスター、発注・入荷予定、入荷実績、受注・出荷指示、出荷実績において連携できる。両システムは①アパレル業界に強い②カスタマイズが最小限で済む――との点で親和性があり、ロジザードは「既にユーザーから利用申し込みがあるので需要の高さがうかがえる」としている。(辻本亮平)

パーソルR&D・アイロック
運転訓練装置 共同開発へ

技術系エンジニアリング事業を手掛けるパーソルR&D(礒田英嗣社長、名古屋市中央区)は15日、アイロック(古賀琢麻社長、天白区)とのトラック運転訓練用VR(仮想現実)ドライビングシミュレーターの共同開発に合意した、と発表した。

安全運行には、ドライバーの高い運転技術と、そのための教育の充実が求められる。しかし、トラックへの乗務によるスキル向上は、短期間かつ容易に図れるものではなく、現在のようなコロナ禍では、ベテラン運転者の同乗指導なども難しくなっている。こうした課題の解消に向け、パーソルR&Dが持つ商用車開発の知見とアイロックの3Dフローティングフルモーション技術を融合し、トラック運行における様々なシーンを再現するシミュレーターを開発する。

10月21~23日に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催される展示会「コンテンツ東京」で試作機を公開する。(原田洋一)

紙製バリア素材 採用
マックス

石けんなどの製造、企画、販売を手掛けるマックス(大野範子社長、大阪府八尾市)は14日、日本製紙の紙製バリア素材「シールドプラス」を、コスメ業界で初めて包装に採用した、と発表した。シールドプラスは紙製だが、従来のプラスチックやアルミのように香りを漏れなくするなどバリアの性質がある。

マックスと日本製紙、フジモリ産業(藤森行彦会長兼社長、東京都品川区)が共同開発。包装全体のプラスチック含有量を従来と比べ約半減した。同パッケージを採用したマックスの入浴剤「天使のバスパウダー」を9月1日に発売する。

シールドプラスは2017年に販売開始。主に食品分野の包装紙として使われている。コスメ分野での導入は今回が初めて。共同開発した3社は今後もコスメ商品の脱プラ推進に積極的に取り組む。(辻本亮平)

プラ含有量を半減

環境配慮型資材展を開催
海洋プラ削減へ 保管棚やハンガー
アパ産協

日本アパレル・ファッション産業協会(JAFIC、上山健二理事長)は15日、「JAFIC環境配慮型資材展」を開催した。アクロストランスポート(大迫友行会長兼社長、東京都港区)、センコー商事(米司博社長、江東区)、日本コパック(斉藤宗利社長、台東区)など22社が、プラスチックの削減に資する資材をプレゼンテーションした。

海洋プラスチック問題を契機に持続可能な資材が求められている中、生分解性プラスチックや再生紙を用いた包材を展示。アクロストランスポートとセンコー商事は、段ボールで作った保管用の棚、生分解性プラスチックを使ったチャック付き袋、再生紙100%ハンガーなどを提案。日本コパックは百貨店循環ハンガーを植物由来樹脂配合に変更するなど、納品資材の標準化による循環型社会への貢献をアピールした。(沢田顕嗣)

日本コパックは納品資材の標準化を提案

フラッシュ

ムーボバース刷新 外部連携を見据え
ハコブ

Hacobu(佐々木太郎社長兼CEO=最高経営責任者、東京都港区)は19日、トラック予約受け付けサービス「MOVO Berth(ムーボバース)」をリニューアルし、大幅にアップデートした。社会インフラとしてより広く利用できる機能の実現、更なる開発スピードの向上が狙い。

これまでも2週間に一度のペースでアップデートしていたが、物流情報プラットフォーム「ムーボ」で提供しているサービスや、外部企業のサービスとの連携を望む声が増加。これらへの対応を見据え、システム設計を見直し、セキュリティー強化、ユーザーインターフェースの刷新、新機能の追加、外部連携のスピードアップなどに取り組む。

現在、同ソリューションの利用拠点は2543カ所で、11万2千人を超えるトラックドライバーが使っている。(原田洋一)

低温倉庫用照明 寿命1.5倍 重量半分
岩崎電気

照明器具など製造・販売の岩崎電気(伊藤義剛社長、東京都中央区)は8月、新しいマイナス40度対応の冷凍倉庫向けLED(発光ダイオード)高天井用照明器具を発売する。同社が提供する従来のものより高効率化、長寿命化、低コスト化を図っている。

商品名は「レディオックハイベイシータ プラス低温対応形」。同社では既にマイナス40度に対応した「レディオック シーリング HB 低温対応形」を発売しているが、今回、効率性は2倍、寿命は1・5倍、重量は半分以下へ改良。価格も従来品の希望小売価格が19万6500円なのに比べ、新商品は9万9800円と抑えている。(辻本亮平)

ウェブ限定キャンペ

▼バイク便事業などを手掛けるタイムボックス(小仁井秀雄社長、東京都中央区)は6日から、ウェブ受注限定でクオカードプレゼントキャンペーンを行っている。500円分のクオカード計2千枚の配布が終わるまで実施する。バイク便(直行便)かカーゴ便(軽自動車便)が対象。新型コロナウイルス感染拡大による景気悪化を踏まえ、消費を促すとともに、事業のPRにつなげる。

自動玉外しレンタル

▼総合建設機械レンタルのアクティオ(小沼直人社長、東京都中央区)は13日、遠隔操作で玉掛け・解除をできる「自動玉外し装置」のレンタルを開始した。玉掛け中の労働災害を防止可能。また、重量物が傾く場所や、高所、細い場所など、玉掛けが難しい場所でも安全に作業できる。

(面担 田村咲絵)